



「幸せ」

校長 三浦 伸之

先日、何故か1980年代に明石家さんまさんが某醤油メーカーのCMで歌っていた「♪しあわせ〜ってなんだ〜っけなんだ〜っけボン酢しょうゆのあるうちさ〜♪」が頭の中に流れてきました。いや、別に「ボン酢が必要で買いに行ったときつい口ずさんでしまった。」とかではなく、突然、頭の中に流れてきたのです。決して「幸せ」に飢えている訳ではありません。確かに若い頃は「幸せ」に対する感情の起伏が大きかった気がしますし、「幸せ」って特別なものだったような気がします。年を取ったせいか、「食べ物がおいしい」「毎日笑える」「子どもたちが元気」「景色がきれい」等々、若いころと違って何気ないことにも「幸せ」を感じることができずから、「幸せ」を感じるセンサーの針のふり幅が小さくなっているのは確かだと思います。にしても、何故突然さんまさんのCMソングなのか？これは今回の学校だよりは「幸せについて書きなさい。」という天からの声だということにして、この学校だよりを執筆しています。さて、この「幸せ」ですが、文化庁の広報誌によると、「幸せ」はそもそも室町時代には「仕合わせ」と書いていたそうです。「仕合わせ」とは「〜し合わす」が変化してもので、「巡り合わせ」を意味していて、偶然巡り合うことで生まれる感情とのこととなっていました。なので、この「しあわせ」という言葉には、いい意味も悪い意味も含まれていましたようです。しかし明治以降、西洋から「Happiness」という概念が入ってきた際に、その訳語として「幸福」や「幸せ」という表記が充てられ、それ以降、現在のようにポジティブな意味として「幸せ」という表記が一般的になったそうです。ただ、中島みゆきさんの「糸」という歌の歌詞では「♪逢うべき糸に出逢えることを人は仕合わせと呼びます♪」のように、現代でも、人と人との出会いや、人が協力して絆を作る巡り合わせには「仕合わせ」を使うこともあるようです。こちらの「仕合わせ」も奥深く素敵だなと思いました。さて、「幸せ」の方ですが、辞書的には「運がよいこと」「不満がないこと」「うまい具合にいくこと」などが出てきます。また、慶応大学の前野隆司教授は、幸せのメカニズムとして4つの因子を上げており、①自己実現と成長の因子（自分の強みを社会で活かしている・なりたかった自分になれている・より良い自分になるための努力をしてきた）②つながりと感謝の因子（人を喜ばせる・愛情・感謝・親切）③前向きと楽観の因子（物事を楽観的に捉える・気持ちの切り替えの早さ・自己受容感）④独立とマイペースの因子（自分らしく・自分をはっきりと持っている）この4つを揃えることが「幸せ」につながる鍵だと述べています。確かに、どれか一つ二つだけが満たされていても、バランスが悪く、どこかで「幸せ」が途切れてしまうかもしれませんね。でも、実際に「幸せ」を感じる時に、前述のようなことを分析して「だから幸せなんだな。」などと考える人は、殆どいませんよね。大切なことは、いかに身近なことや、小さな心の変化に「幸せ」を感じることができるかということだと私は思います。

明日は第51回卒業証書授与式。135名の51期生がこの岸川中学校から旅立っていく日でもあり、新たな人生のスタートを迎える日でもあります。今は人生100年時代と言われていきます。今までの人生よりも、この先の人生の方が数倍長いものとなることでしょう。自分を、そして人を大切に、身近なものに感謝や思いやりの気持ちを忘れずに、いつも心にゆとりをもって、どうか自分なりの「幸せ」を自分自身の力で掴んでください。未来はあなたの手の内にあります。皆さんのこれからの明るい未来に、幸多きことを心から願っています。